

第5章 本市の上位計画・関連計画が目指す都市像

5.1 上位計画・関連計画が目指す都市像

本市では、自転車関連の上位・関連計画として、「第6次宇都宮市総合計画（平成30年3月）」「第2次宇都宮都市交通戦略（平成31年3月）」「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン（平成27年2月）」「第2次宇都宮市観光振興プラン（平成30年3月）」「第10次宇都宮市交通安全計画（平成28年6月）」などを策定しています。

【第6次宇都宮市総合計画】

市民・事業者・行政などの構成員が一体となってまちづくりに取り組むための基本的な考え方や2050年を目標年次として目指す将来の姿を示し、これからのまちづくりの指針となる「第6次宇都宮市総合計画」を策定しました。

総合計画では、重点課題が解決された望ましい状態を「まちづくりの基本方向」として示しています。

【まちづくりの基本方向】

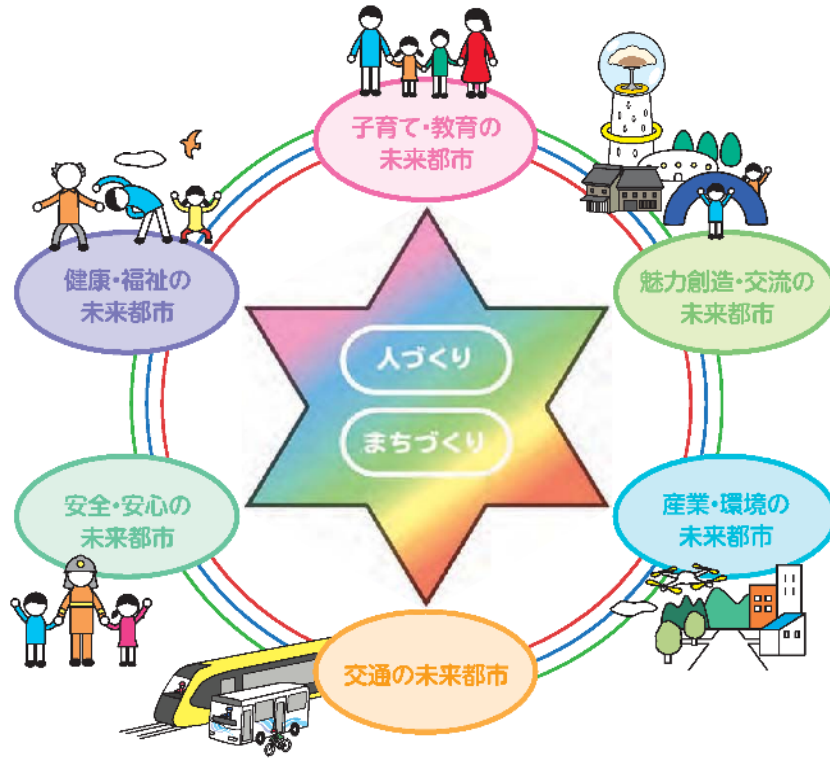
- ① 子育てができる環境が整い、次世代の「人づくり」が充実し、誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる「子育て・教育の未来都市」の実現
- ② 医療・福祉が充実し、誰もが健やかで生きがいを持って自立した生活を送ることができる「健康・福祉の未来都市」の実現
- ③ 危機への備えが万全で、地域のつながりや支え合いが大切にされ、日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる「安全・安心の未来都市」の実現
- ④ 地域資源の魅力を創造・発信し、人や情報が行き交い活力が生まれる「魅力創造・交流の未来都市」の実現
- ⑤ 地域の確固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市の実現が両立する「産業・環境の未来都市」の実現
- ⑥ 魅力ある都市空間の創造と骨格の強い交通ネットワークが構築された「交通の未来都市」の実現

【都市空間の姿】

本市のこれまでの成り立ちや地域の持つ歴史・文化、地域コミュニティなど、それぞれの地域が持つ個性や特性を生かしながら、今後の人口規模・構造の変化に適合した本市独自の多核連携型による都市空間の姿である、NCCの形成を目指します。



輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや



出典：第6次宇都宮市総合計画

「将来のうつのみや像（都市像）」のイメージ図



- * 多核連携型：複数の階層からなる集約拠点を設定し、それら核間の連帯を通じて都市機能を維持・強化することを狙った都市構造
- * ネットワーク型コンパクトシティ：中心市街地やそれぞれの地域拠点、産業・観光拠点にまちの機能を集約（コンパクト化）し、それらを利便性の高い公共交通などで連携（ネットワーク化）した都市

出典：第6次宇都宮市総合計画

NCCのイメージ図



【第2次宇都宮都市交通戦略】

近年のLRT整備の進捗に加え、少子・高齢化の更なる進行や国内外からの観光客の増加、自動運転技術等の科学技術の進歩などの交通を取り巻く環境の変化を踏まえ、今後の交通施策の指針として、「第2次宇都宮都市交通戦略」を策定しました。

交通戦略では、多様な交通手段を「つくり」、それらの交通手段同士を「つなぎ」、状況に応じて適切に交通手段を「つかい」ながら、最新技術などを取り入れるなど、交通の利用を「ひろげる」ことを目指しています。

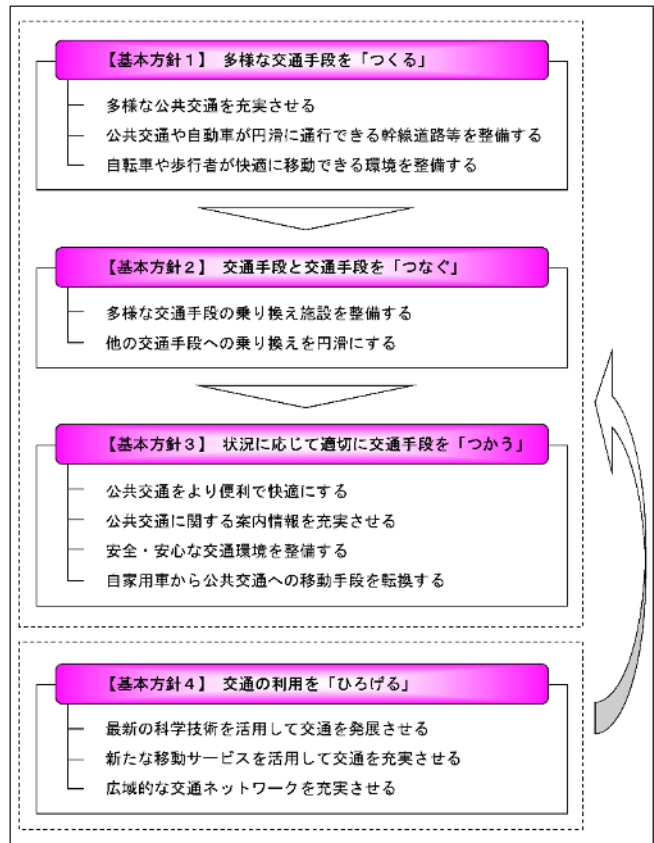
【基本理念】

街がつながり人がつながる、暮らしが変わる
「交通未来都市うつのみや」

【目指す都市交通の将来像】

「交通未来都市うつのみや」が実現した姿

- 誰もが移動しやすい階層性のある公共交通ネットワークが形成され、日常生活の移動手段が確保されている。
- トランジットセンターが整備され、公共交通や車、自転車などの円滑な乗り換え環境が確保されている。
- バリアフリー化された安全な歩行空間や自転車走行空間が整備され、子どもから高齢者まで、誰もが安心して移動できる。
- 新幹線や鉄道、高速道路などの交通ネットワークが整備され、地域間の連携や人々の交流が促進されている。
- 自動運転技術やシェアリングサービスの活用により、多様なライフスタイルに対応した移動手段が提供されている。
- 交通ICカードや各種割引運賃が導入され、公共交通が利用しやすい環境が整備されている。
- 目的に応じて車と公共交通を適切に使分けするライフスタイルが浸透している。



出典：第2次宇都宮都市交通戦略

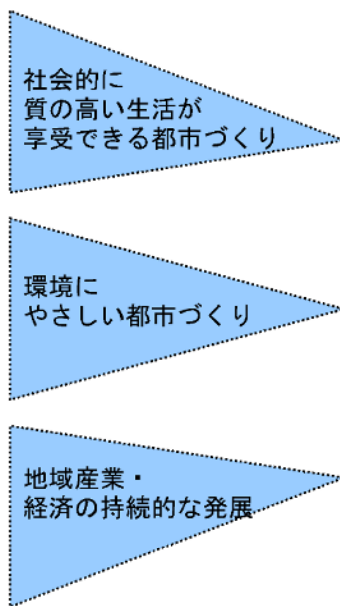


【ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン】

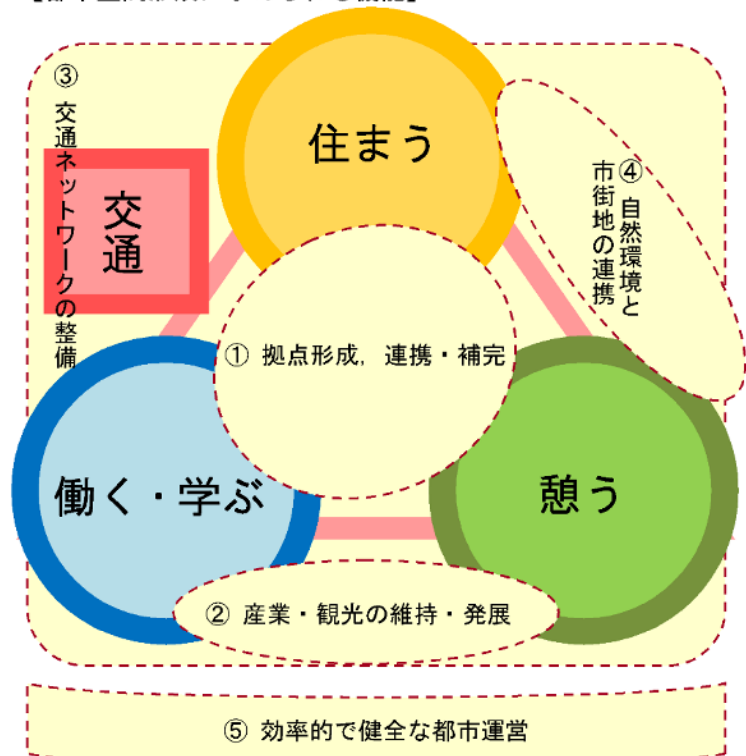
将来予想されている少子・超高齢化，人口減少のなかで持続的に発展できるまちづくりを進めていくため，2050年を見通した長期的な視点で，これからのまちづくりに求められる機能を備えた都市構造のイメージと，その実現のための具体的な推進方策を示す「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」を策定しました。

まちづくりの方向性を市民と共有することで，将来にわたって市民生活の質を維持・向上していくことを目指しています。

【社会潮流】



【都市空間形成に求められる機能】



実現するための都市の姿
『ネットワーク型コンパクトシティ』

【『ネットワーク型コンパクトシティ』実現のための5つの柱】

- ① 拠点形成と拠点間の連携・補完により持続的に発展する都市
- ② 本市の特性を生かした産業・観光を維持・発展させる都市
- ③ 交通ネットワークが整備された利便性の高い都市
- ④ 自然環境や農地と市街地が有機的に連携した都市
- ⑤ 効率的で健全な都市運営を実現する都市

出典：ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン



【第2次宇都宮市観光振興プラン】

市では、地域資源を最大限に活用し、魅力ある観光を総合的に推進していくため、「きらめく資源と心のこもったおもてなしで記憶に残る感動を～観光交流未来都市・うつのみや～」を基本理念として、「第2次宇都宮市観光振興プラン」を策定しました。

市の観光資源である餃子、ジャズ、カクテル、大谷、自転車、農産物など、豊富な資源を活用した観光による経済の活性化を図りながら、将来に渡って魅力と交流を創出する都市の実現を目指しています。

「観光交流未来都市・うつのみや」の実現

基本戦略Ⅰ：宇都宮らしさを追求した観光資源の磨き上げの強化

(主要施策)

- I-1 宇都宮ブランドの確立
- I-2 大谷地域の再創生
- I-3 観光交流拠点の魅力向上
- I-4 個性あるツーリズムの推進

基本戦略Ⅱ：戦略的な情報発信とプロモーションの推進

(主要施策)

- II-1 国内プロモーションの強化
- II-2 インバウンドの推進
- II-3 効果的な観光情報の発信
- II-4 MICE等の推進

基本戦略Ⅲ：県内観光のハブ機能の強化及び周辺都市等との広域連携の推進

(主要施策)

- III-1 県内観光のハブ機能の強化
- III-2 広域連携の強化

基本戦略Ⅳ：官民一体となったおもてなしの充実

(主要施策)

- IV-1 市民・事業者のおもてなし意識の向上
- IV-2 国内外からの観光客受入体制の整備
- IV-3 人材の育成

出典：第2次宇都宮市観光振興プラン



【第10次宇都宮市交通安全計画】

「自転車のまち宇都宮」の実現に向けて自転車専用通行帯などの自転車の利用環境が整備される中、これまで以上に、自転車利用者における交通ルール遵守、マナー向上が求められている状況を踏まえ、国の掲げた「第10次交通安全基本計画」に則り、「第10次宇都宮市交通安全計画」を策定しました。

少子・超高齢化、人口減少社会の到来や、公共交通ネットワークの整備など交通環境の変化が予想され、さらに、自転車利用者の交通ルール遵守、マナー向上への対応が急務である中、交通安全意識の高揚・道路交通環境の整備に関する施策の充実を図るとともに、特に高齢者・自転車利用者・子ども・高校生といった対象を重視した交通安全対策を推進しています。

スローガン：子供も高校生も高齢者もみんなで交通事故のない愉快なまちへ

施策の柱Ⅰ 市民一人ひとりの交通安全意識の高揚

【施策の方向】

- 「各年代の特性に応じた段階的及び体系的な交通安全教育」
- 「自転車利用者への交通安全教育」
- 「交通安全運動」「交通安全広報啓発活動」
- 「交通安全に関する民間団体等の主体的活動」を推進します。

施策の柱Ⅱ 地域と連携した道路交通環境の整備

【施策の方向】

- 「歩行者や自転車の通行空間の整備」
- 「交通事故多発地点等の安全性向上」
- 「交通安全に配慮した道路交通環境の整備」を推進します。

施策の柱Ⅲ 地域における道路交通秩序の維持

【施策の方向】

- 「自転車の交通事故防止のための地域活動」
- 「暴走族対策や飲酒運転根絶に向けた取組」を促進します。

施策の柱Ⅳ 救助・救急対策の推進

【施策の方向】

- 「救助・救急体制の充実」
- 「応急手当の普及啓発活動」を促進します。

資料：第10次宇都宮市交通安全計画



5.2 自転車が担う役割

本計画の関連計画等に示される目指す都市像から、自転車が担う役割を設定しました。

上位計画・関連計画が目指す都市像

- 〔総合計画〕
 - ・ NCCの形成(「拠点化の促進」と階層性のある交通による「ネットワーク化の促進」により、市民が『住まう』『働く・学ぶ』『憩う』ことができる都市空間の形成)
 - ・ 日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる
 - ・ 地域の確固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市
 - ・ 地域資源の魅力を創造・発信し、人や情報が行き交い活力が生まれる
 - ・ スポーツ活動への興味・関心を持ち、ライフステージ等に応じて楽しくスポーツ活動に取り組んでいる
 - ・ 観光・スポーツなどの分野において市民、団体、事業者との連携や市域を超えた市町との広域的な協働によるまちづくりの推進に取り組んでいる
- 〔都市交通戦略〕
 - ・ 多様なライフスタイルに対応した低コストで効率的な移動手段の確保
 - ・ 階層性のある公共交通ネットワークの構築
 - ・ バリアフリー化された安全な歩行空間や自転車走行空間の整備 等

自転車が担う役割

- 安全・快適な自転車の利用環境が整備され、NCCにおける市民や来街者の移動手段として多様な場面で自転車を活用
- 自転車と公共交通との連携強化により徒歩・自転車・公共交通で生活が可能となり、過度なクルマ依存からの転換を促進
- 利便性・経済性が高い自転車の活用により、環境負荷の低減や市民の健康増進を促進するとともに、自転車を楽しむ機会の提供
- サイクルツーリズムやサイクルスポーツ（ジャパンカップ・アーバンスポーツ等）の普及など自転車を活用した都市の魅力向上
- 官民が連携・協力した自転車を活用したまちづくりの推進



具体的な自転車の使われ方を以下の通り整理しました。

■通勤・通学・買い物やサイクリングに利用できる安全・安心・快適な自転車ネットワークが構築されている。

■自転車利用者だけでなく、普段自転車を利用しない人も自転車通行ルールを認知している。

■プロスポーツ競技者など多様な担い手の参加により、幅広い世代が自転車の楽しさや交通ルールなどを学ぶ機会が充実している。

■市民一人ひとりはもちろん、地域や事業者などにおいても健康への意識が高まり、自転車はそのツールとして定着している。

■利便性の高いシェアサイクルが普及し、中心市街地や観光地の回遊、仕事での移動に利用されている。

■多くの市民や来街者がサイクルスポーツを楽しんでおり、ジャパンカップコースやサイクリングロードを使った周遊観光が人気のコースとなっている。

■短い距離はもちろんのこと距離のある場合でもLRTや路線バスなどの公共交通と組み合わせて通勤・通学や買い物に自転車が利用されている。

■多くの市民や企業が自転車のまちの推進に参加している。

■「自転車のまち宇都宮」が国内・国外に情報発信されている。

